

令和5年度 渡島公立学校教頭会研究大会の開催にあたって

令和5年度第58回渡島公立学校教頭会研究大会の開催にあたり、主催者を代表いたしましてご挨拶を申し上げます。

本日は校務ご多用中にもかかわらず、皆様に参加していただき、心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、約3年半にわたる新型コロナウイルス感染症への対応を経て、学校運営が平常に戻りつつあります。この間、児童生徒の学びを止めないためにオンラインを活用した授業等が普及したほか、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が図られてきました。また一方で、対面での教育や協働的な学びの有用性も再認識されました。

当会では、今年度「未来を切り拓く力を育む魅力ある学校づくり」～教職員の資質向上や職務意識の高揚を図る教頭の役割～を研究主題として研修を進めています。これは、全国統一研究主題を受けた道公教の研究主題の下、渡島ブロック担当の第5課題である教職員の専門性に関する課題に迫ったものとし、3年次研究の1年次目のスタートの年となります。今後の3年間、研究推進ロードマップに基づき、ゴールの姿を明確にした研究と実践を推進し、すべての子どもたちに生きる力を身に付けさせるために、時代の進展・変化に的確に対応しながら魅力ある学校づくりに迫ります。そのためにも学校教育における人材育成(後継者育成も含め)、令和の日本型教育を基盤とした学校経営の推進、学習指導要領の着実な実施、授業改善の推進、多様化する教育課題への対応等を継続して行っていく必要があります。渡島公立学校教頭会では、「いつでも、どこでも、つながる教頭会」をキーワードに、研修体制はハイブリッド型としました。ICTの積極的な活用による情報発信、迅速な情報共有、対面での研修による横のつながり・人とのつながりを大切にしながら学びを深めて参ります。

本日は研究推進ロードマップに基づき、令和5年度までの成果と課題を踏まえながら新たな研究主題を設定してのはじまりです。会員の皆様には、今後ともご支援ご協力をいただきながら、教頭会の運営を支えるだけでなく、教頭としての資質向上に努め、渡島全ての学校力向上に繋げていただければと存じます。

結びに、本研究大会を開催するにあたり、ご講演を賜ります北海道教育庁渡島教育局義務教育指導監 五十嵐 義幸様を始め、提言資料の作成や研究推進等いただきました各市町教頭会、運営準備を進めていただきました皆様のご苦勞に感謝とお礼を申し上げます。

本日の本研修会が、「子どもたちの生きる力を育み、一人一人の良さや可能性を引き出す教育」につながり、渡島全体の教育の質が上がることを切に願い挨拶といたします。

渡島公立学校教頭会 会長 太田 浩司